

【2】見守りネットワークの構築

地区福祉懇談会の開催 (あわら市)

基礎情報

実施地域	あわら市全域
実施主体	社会福祉法人あわら市社会福祉協議会
所在地	あわら市市姫2丁目31-6
代表者	会長 関 法子



活動を始めたきっかけ

- ・構成世帯が少ない自治会・町内会で、高齢化により組織内での見守り活動が難しくなっていくことが予想され、外部からのサポートを検討する必要性が生じた。
- ・地域毎の特性が違っていることから、まちづくり・地域連帯の取り組みに温度差が生じており、地域毎に自分たちに合った取り組みを進める。

見守り活動の担い手

- ・近隣自治会
- ・町内会
- ・民生委員
- ・福祉推進員
- ・その他のボランティア

見守り対象者

- ・一人暮らしを含む高齢者世帯
- ・認知症高齢者
- ・寝たきり高齢者
- ・障害者
等

活動概要

- ・市内の全地区（10地区）をまわり、少ない人的資源を効率よく活用し地域毎の問題を解決するためには、集落内での取組み、地区（小学校区）ごとの取組み、全市的取組みの3つの段階毎に活動を整理・分担することが必要であることを説明するとともに、社会福祉協議会として地域毎の取り組みを支援する事業を紹介した。
- ・地域毎の見守り活動関係者がテーブルを囲んで情報交換し、見守り対象者の現状把握と共有に努めるとともに、こうした機会を増やし自主的活動を喚起するため、モデル事業を創設した。
- ・福祉推進員の活動についてはマニュアルを整備し、役割を明確化して活動を推進することとした。（地図を使った取組みについては、地区毎に取組むよう促している。）

見守りが必要な人の把握方法

- ・近隣自治会、町内会、民生委員、福祉推進員、その他のボランティアが集まって、気になる人、相談を受けている人について共有し、従来の見守り活動に漏れが見つかった場合は、メンバーで手分けして現状を把握。

活動の成果・異変発見事例

- ・災害時要援護者の洗い出し、一人暮らし高齢者向け緊急連絡票の配付について徹底を図るとともに、棚卸し・情報の更新を進めた。
- ・地区防災会議の設置が進んでいることもあり、地図が地区防災計画に活かされている。

工夫した点

- ・今年は福祉推進員を増員し、参加対象を防犯隊員、老人過程相談員などに広げ、小地域ネットワークの重要性を説く講義と、地域の課題を討議するワークショップを行う形式とした。

事業の財源

- ・市補助金及び社協自主財源

課題

- ・モデル事業応募地区数が当初予想を下回り、一層の啓発が必要。
- ・防災防犯関係者、企業人に、「地域住民」として参画するよう意識づけることが必要。

今後の目標

- ・福祉推進員未設置の自治会について、原則設置とした。空白区も順次設置する方向で働きかける。

